

Title	福澤諭吉の桃花見物場所
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1983
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.53, No.1 (1983. 5) ,p.60- 60
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19830500-0060">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19830500-0060</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

### 福澤諭吉の桃花見物場所

河北 展生

福澤諭吉が緒方塾に在塾中、同窓生と一日桃の花見に出た時のことを左の如く『福翁自伝』に記している。

「頃は三月桃の花の時節で、大阪の城の東に桃山と云う処があつて、盛りだと云ふから花見に行かうと相談が出来た。……凡そ十四、五人同伴があつたらう、弁当を順持にして桃山に行つて、さんざん飲食ひして宜い機嫌になつて居る其時に、不図西の方を見ると大阪の南に当て大火事だ。……桃山から大阪まで二、三里の道をどんどん駆けて、道頓堀に駆付けて見た所が、疾うに焼けて仕舞ひ、三芝居あつたが、三芝居とも焼けて、段々北の方に焼延びて居る。」

大阪の近郊の「桃山」という処となると、誰しも、天王寺区小橋町近辺、大阪環状線鶴橋駅から桃谷駅へかけての一带をさすのが一般である。然し、「桃山から大阪まで二三里の道をどんどん駆けて」とあり、大阪城の東と明記してある点、方角は前記桃山は大坂城の真南に当り、道頓堀までの距離は、二、三軒しかなく、福沢の行った桃山を此処にすることに強い疑問を感ずる。

たまたま大阪人文社刊の『大阪市街図』（昭和四八年版）に、大阪城の東四軒余、東大阪市稲田町楠根町の境界に近く、「稲田

桃林跡」が名勝跡として記載されているのを発見、『中河内郡史』を見ると、「稲田桃、往昔此地は桃の名産地なりければ花の盛りには、楠根川に舟を浮べて花見の宴を張り、桃花を愛せしが、今はただ数株の桃樹を川畔に残せるのみ」と記し、生駒山人詩集（宝曆十二年刊）より、「誰家年少野村西沙岸停舟路欲迷十里桃林花未落始知身到武陵溪」の漢詩を引用している。

江戸時代、楠根一帯が桃林であつた事は明らかだが、何時まで桃林が存在したかを確認のため、昨年十一月末、東大阪市立縄手中学校教諭の萩田昭次氏を訪ね、教示を受けたところによると、享和二年の『河内名所図』にも、亦文化二年刊の『五畿内産物絵河内之部』にも、稲田の桃林や、稲田桃の絵が載せられてゐる。この桃林は、明治十八年の淀川の大洪水で絶滅し、僅かに数本が残存しているとのことで、それまで稲田・楠根一帯に桃林の存在した事が確認される。

福澤が緒方の同窓生と出掛けた花見の場所「桃山」は、東大阪市の楠根附近であつたと思はれる。